

インド学チベット学研究

JOURNAL OF INDIAN AND TIBETAN STUDIES

第9・10号

- 藤田祥道 大乘の諸経論に見られる大乘仏説論の系譜
— I. 『般若経』：「智慧の完成」を誹謗する菩薩と恐れる菩薩— (1)
- 乗山 悟 アルチャタの「主題所属性論」
— *Hetubinduṭīkā* 研究(3)(pp.11,4—17,23)— (56)
- 那須円照 *Pratisaṃkhyānirodha*
— "Documents d'Abhidharma traduits et annotés par Louis de La Vallée Poussin: Textes relatifs au *Nirvāṇa* et aus *Asaṃkṛta* en général II." *Bulletin de l'École Française d'Extrême-Orient* 30: p. 272.11-292.17 和訳— (81)
- 岡本健資 王弟ヴィータショーカの物語
— *Divyāvadāna* 第28章 *Vīśākāvadāna* 和訳— (108)
- Mark Siderits & Shoryu Katsura *Mūlamadhyamakakārikā* I-X (129)

2005 / 2006 年

インド哲学研究会

執筆者紹介

藤田祥道 (ふじた よしみち)	龍谷大学非常勤講師
乗山悟 (のりやま さとる)	龍谷大学非常勤講師
那須円照 (なす えんしょう)	龍谷大学仏教文化研究所客員研究員
岡本健資 (おかもと けんすけ)	龍谷大学非常勤講師
Mark Siderits	イリノイ州立大学教授
桂紹隆 (かつら しょうりゅう)	龍谷大学教授

編集後記

『インド学チベット学研究』第9・10合併号をお届けする。2004年4月龍谷大学文学部仏教学科インド哲学教授として赴任した際に、前任者である神子上恵生先生から、先生が創刊された本誌の編集者を引き受けるよう依頼された。快く引き受けさせて頂いたものの、論文はなかなか集まらず、編集はなかなか進まず、再び2年分の合併号になってしまったことを先生にお詫び申し上げる。

若手研究者の翻訳研究を中心とした学術論文を掲載しようという創刊者の意図にある程度沿った雑誌ができあがったと思うが、中にはあまり若くない投稿者2名がいることをお許し願いたい。今後も神子上先生の門下生諸氏の積極的な投稿によりこの雑誌がますます充実していくことを念願するとともに、在任中そのお手伝いできれば幸いである。

最後に、本号発刊にあたり神子上恵生先生から全面的な経済的援助を受けたことをここに記して、感謝の意を表したい。(桂記)

『インド学チベット学研究』入手のご案内

本誌の入手を希望されます場合は、実費で頒布いたします。住所氏名および入手希望号・冊数を編集者の桂紹隆までご連絡ください。折り返し発送するとともに、費用の支払い方法についてご案内いたします。費用は各号いずれも本体1000円+送料実費となっております。

＜バックナンバーのご案内＞

第1号 (品切れ) 神子上恵生／唯識学派による外界対象の考察(2)—Tattvasaṃgraha と Tattvasaṃgrahapañjikā の23章外界対象の考察— 若原雄昭／仏教とのジャイナ教批判(2)— 藤田祥道／『五百頌般若経』について—試訳(承前) 那須円照／有部の形実有論と経量部の形実有論(上) 原田和宗／＜経量部の「単層の」識の流れ＞という概念への疑問(I)

第2号 藤田祥道／クリキン王の予知夢譚と大乘仏説論—『大乘莊嚴經論』第一偈の一考察— 原田和宗／＜経量部の「単層の」識の流れ＞という概念への疑問(II) 那須円照／アビダルマの極微論(2)—極微が触れるか触れないかという問題を中心として 神子上恵生／唯識学派による外界対象の考察(1)—Tattvasaṃgraha と Tattvasaṃgrahapañjikā の23章外界対象の考察—

第3号 藤田祥道／仏語の定義をめぐる考察 岩本明美／『大乘莊嚴經論』第13章「修行章」—サンスクリットテキストと和訳— 原田和宗／＜経量部の「単層の」識の流れ＞という概念への疑問(III) 乗山悟／アルチャタの「推論の解明」—*Hetubinduṭīkā* 研究(1)(pp. 1-5)—

第4号 乗山悟／アルチャタの「綱領偈」解釈—*Hetubinduṭīkā* 研究(2)(pp. 6-11, 3) 原田和宗／＜経量部の「単層の」識の流れ＞という概念への疑問(IV) 那須円照／得・非得に代わる種子

の理論 岡本健資／クナーラ王子の物語—Ku-na-la'i rtogs pa brjod pa 試訳(1)— 那須円照／アビダルマ研究ノート

第5・6号 神子上恵生／インド瑜伽行唯識学派における諸仏とのコミュニケーション 原田和宗／<経量部の「単層の」識の流れ>という概念への疑問(V) 岡本健資／クナーラ王子の物語—Ku-na-la'i rtogs pa brjod pa 試訳(2)— 櫻井良彦／説一切有部における衆同分の分類

Kiyoyuki KOIKE (小池清廉)／Suicide and Euthanasia from a Buddhist Viewpoint—On *Nikāya*, *Vinaya Piṭaka* and the Chinese Canon— Satoru NORIYAMA(乗山悟)／On the *Maṅgala* verse of *Hetubinduṭīkā* Erich FRAUWALLNER (那須円照訳)／Die Erlösungslehre des Hinayāna (小乗の解脱論)

第7・8号 村上真完／大乘仏教の起原 武田宏道／認識主体としてのプロダガラ存在に関する批判—『俱舍論』破我品の所説を中心にして— 那須円照／*Abhidharmadīpa* (『アビダルマディーパ』)の時間論<三世実有論>試訳 岡本健資／*Divyāvadāna* 第26章所収ウパグプタの物語試訳—猿の瞑想・娼婦への教化・マールへの教化— 那須良彦／説一切有部における得と随得 Kiyoyuki KOIKE(小池清廉)／Mental disorders from a Buddhist View, especially those within the *Nikāya*, the *Vinaya Piṭaka* and the corresponding Chinese translations

インド学チベット学研究 第9・10号

2006年10月発行

編集者 桂紹隆

発行者

インド哲学研究会 (代表者 桂紹隆)

Association for the Study of Indian
Philosophy

〒600-8128

京都市下京区七条大宮

龍谷大学文学部

桂研究室気付

DEPARTMENT OF BUDDHIST STUDIES,

FACULTY OF LETTERS, RYUKOKU

UNIVERSITY, SHICHIJO OMIYA, KYOTO

600-8128 JAPAN

e-mail: skatsura@let.ryukoku.ac.jp

電話 (075) 343-3311 (大代表)

銀行口座 みずほ銀行 京都支店 (普)1003766 桂紹隆

JOURNAL OF INDIAN AND TIBETAN STUDIES

(INDOGAKU CHIBETTOGAKU KENKYU)

No. 9·10, 2005 / 2006

CONTENTS

- Yoshimichi FUJITA,
Development of the Theory in the Defense of Legitimacy of
the Great Vehicle in Mahāyāna Sūtras and Treatises
— I Prajñāpāramitā Sūtras: Bodhisattvas who abuse the Perfection of Wisdom
and those who are afraid of it — (1)
- Satoru NORIYAMA,
Arcaṭa, On the *Pakṣadharmatā*
—An Annotated Translation of *Hetubinduṭīkā* (3) (pp.11,4–17,23)— (56)
- Ensho NASU, tr.,
Pratisaṃkhyānirodha
—"Documents d'Abhidharma traduits et annotés par Louis de La Vallée Poussin:
Textes relatifs au *Nirvāṇa* et aus *Asaṃkṛta* en général II." *Bulletin de l'École Française*
d'Extrême-Orient 30: p. 272.11-292.17— (81)
- Kensuke OKAMOTO,
A Tale of *Vītaśoka*
—Japanese Translation of the 28th Chapter of the *Divyāvadāna*— (108)
- Mark SIDERITS & Shoryu KATSURA,
Mūlamadhyamakakārikā I-X (129)

Editor

Shoryu Katsura

Association for the Study of Indian Philosophy
Kyoto, Japan